

はじめて 憲法を学び 大切さを知った

第38回民医連 全国青年ジャンボリー in 岐阜

昨年10月27日から29日の3日間、第38回民医連全国青年ジャンボリーin岐阜が、開催されました。民医連の青年ジャンボリー（以下JB）とは、「ひとりぼっちの青年をつくらない」をモットーに、青年職員同士で学習・交流を行う活動です。今回の全国JBのテーマは「結び—人と人、今と未来をつなぐ清流の国ぎここやあ」。600人の民医連職員が集いました。大阪からは42人、そのうち同仁会・泉州メデイカから12人が参加しました。

開会式では、憲法のない世界を表現した動画を視聴し、大交流会で初対面の班メンバーとの関係づくりの取り組み。2日目には、白神優理子弁護士から憲法についての学習講演を聴き、私たちにできることをみんなで考えました。岐阜や近接県の社会問題を、五感で感じることが出来るフィールドワークに参加し、夜は班でお酒を飲みながら交流。最終日にはJBで学んだことを自分たちの生活



に落とし込み、行動に移せるようにワークシートで学びを深めました。

報告会では 「また行きたい」

12月12日には、耳原総合病院で報告会を開催しました。班によってフィールドワークの内容が違っているので、岐阜城下町散策や長良川河口堰の現状学習、航空自衛隊基地見学など多様な学びがありました。

また、参加者からは「これまであまり関心のなかった憲法について知ることができた」「憲法の大切さを実感できた」との声があがりました。参加するまでは不安の方が大きかった職員が、また行きたいと思える3日間になった、と話してくれたのはとても嬉しいことです。

(総合病院医局事務課 角野佳奈子)

語りあう医療をめざして



みみはらホール全体を舞台に、演者が動きながら朗読

18人による朗読会 物語「木を植えた男」

11月22日、ケアとアートを研究するアートミーツケア学会（大会は近畿大学で開催）の前夜祭を、耳原総合病院で開催しました。全国の医療・教育機関から40人が病院見学、その後に地域の方2人と職員16人による朗読会を行い、来場者80人と物語を共有しました。

朗読の題材は救急総合診療科部長 大矢 亮医師が大切にしている物語「木を植えた男」ジャン・ジオノ作（英題「希望を植え幸福を育てた男」）です。1950年に始まった「みみはら」の原風景に近いものを感じるこの物語を朗読することは、一人の医療人のビジョンが個を超えて共有されることでもありました。

出演した職員の中には、初めての経験に戸惑いを感じていた人もいましたが、終演後に観客から感動したと言葉をかけられ、やりがいや達成感を感じた清々しい表情

患者さんの傷病そのものだけでなく、その背景にある物語や環境も含めて診るチーム医療を進めるためにも、アートの介在によって個々の物語を引き出していきたいと思えます。今後大勢の職員と、別の物語を紡いでいきたいと思えます。

(管理事務室 舞台芸術ディレクター 衛藤桃子)

シリーズ 現場からの 視点

その54

耳原歯科診療所では、毎年新しい職員を迎え、医療安全についての学習会に取り組みしています。

今回の学習会の目的は、感染を防ぐ為に「手洗い」の重要性を再確認することです。

耳原総合病院の感染管理認定看護師の原之園さんと五角さんを講師により、歯科医師・歯科衛生士・歯科技士あわせて19人と同仁会本部職員3人の参加で、昨年12月5日に耳原歯科診療所にて、診療終了後に行いました。

標準予防策についての講義を聞いた後、汚れに見立てた蛍光クリ

医療安全学習会「手指衛生を学ぼう」

耳原歯科診療所で取り組む

チームに塗り、通常どおりの手洗いをを行い、手洗いチェッカーで、どれだけ洗えているかを確認しました。手にはクリームがたくさん残っており、普段の手洗いが、いかに不十分であったか、確認しました。

「手洗い」は、感染予防の基本中の基本で大切なものです。これからも何度でも学習を行い、スタッフ全員の意識を高めていきたいと考えています。

(歯科衛生士 與那嶺三重)



学習会の様子

